

第 5 2 回原子力委員会臨時会議議事録

1. 日 時 2007年12月27日(木) 14:00～14:30
2. 場 所 中央合同庁舎4号館6階共用643会議室
3. 出席者 原子力委員会
近藤委員長、田中委員長代理、伊藤委員
内閣府
黒木参事官
4. 議 題
 - (1) 第8回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合の結果について
 - (2) 平成20年度原子力関係政府予算案について(速報値)
 - (3) 市民参加懇談会 in 富山について
 - (4) その他
5. 配付資料
 - (1) 第8回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合の結果について
 - (2) 平成20年度原子力関係経費政府予算案総表(速報値)
 - (3) 「原子力委員会 市民参加懇談会 in 富山」参加者募集について

6. 審議事項

(近藤委員長) 第52回の定例会議を始めさせていただきます。

本日の議題は、1つ目が、第8回アジア原子力フォーラム(FNCA)大臣級会合の結果について御報告を頂きます。2つ目が、平成20年度原子力関係政府予算案についての速報値について御報告を頂きます。3つ目が、市民参加懇談会in富山について、4つ目がその他となっています。よろしくお願い致します。

それでは、最初の議題をよろしくお願い致します。

(1) 第8回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合の結果について

(黒田参事官) 最初の議題、第8回アジア原子力フォーラムの大臣級会合の結果について御報告致します。

先日、12月18日に三田共用会議所で第8回の大臣級会合を開催したところでございます。10か国の大臣級の代表が出席いただいております。我が国からは岸田大臣の他、原子力委員長、田中委員長初め原子力委員の先生方等の御出席いただいております。また、町コーディネータ等も御参加いただいております。

今回の会合では、コミュニケを取りまとめまして、その内容として、2013年以降の地球温暖化対策の枠組みにおいて、原子力発電の導入を促進し、CDMの対象とすべきこと。また、2点目として核不拡散、原子力安全、核セキュリティの確保が大前提であるということなどの再確認という趣旨の内容となっております。地域として、このようなコミュニケを出すというのは初めてのことでございます。

冒頭、近藤委員長がセッション議長として福田総理からのメッセージを読み上げていただきまして、岸田大臣からごあいさつを頂いております。その後、西川審議官から、上級行政官会合の結果等の御報告を頂いております。

セッション1ということで、「FNCA活動報告」を町コーディネータからコーディネータ会合の結果、それから8分野11のプロジェクトの成果、さらに先般10月に開催されました検討パネルの結果について報告を頂いております。

セッション2では、「原子力エネルギー平和利用への取組とFNCA活動」ということで、各代表の方から報告を頂いております。日本からは近藤委員長から報告を頂いております。

各国の発表でございますが、日本や韓国、中国のように既に原子力及び一部サイクル施設

が進んでいる国についてはその状況、それから具体的な計画を政府として持っているインドネシア、タイ、ベトナムについては、具体的に政府としての原子力発電の計画の内容について御説明がございました。

また、その他の国についても、各国ともに原子力発電についての非常に高い関心を持っているという趣旨の説明を頂いております。

セッション3では、「放射線利用を中心としたFNCA活動」ということで、町コーディネータより、主にテクネシウム99mジェネレータなどの例を取り上げて、成果について御報告を頂いております。

最後のセッション4で、円卓討議ということ、そこでは2008年度のFNCAの計画やコミュニケないし、その積極的発言、人材養成パネルのフォローアップ等につきまして、来年のFNCAの活動についての決議、それからFNCAの共同コミュニケについて合意が得られております。

最後、閉会セッションで、岸田大臣より会合サマリー案が報告されるとともに、9か国、これはオーストラリアを除いた国でございますが、共同コミュニケに署名をしていただいております。

共同記者会見の後、次回会合についてはフィリピンの科学技術大臣よりフィリピンで実施しますという紹介がなされ、閉会になったという状況でございます。

以上であります。

(近藤委員長) ありがとうございます。

何か御質問ありますか。

(田中委員長代理) 質問ではありませんけれども、感想を申し上げさせていただきますが、今回、原子力発電を中心とした大臣級会合が開かれて、最終的に共同コミュニケがまとめられて、CDMもそこに入れることができたということは非常に大きな成果であったと思います。

特に各国の代表から、アジアもいろいろな経済発展のレベルが違いますので、原子力発電を持っている国と、それからこれから間もなく入れようとする国と、それから将来入れる国、全体として原子力発電、原子力エネルギーを積極的に利用するという方向が確認できたということで、今後日本がそこにどういう貢献をしてコミットしていくかという一つのきっかけを得る、非常に重要な会議であったかなと思います。

以上です。

(伊藤委員) 私も質問でなく感想ですが、今回、この会合で感じましたのは、今、田中代理が

言われましたように、アジア各国で非常に増大するエネルギー需要の伸びにいかに対応するか、あるいは現実にバングラディッシュは干ばつあるいは大洪水と、やはり地球温暖化の直接の影響ではないかという懸念の表明、かなりリアルなコメントがありまして、そういう中で、エネルギーの確保あるいは福祉の向上に、原子力をエネルギーなり放射線利用、両方の面でこれから積極的にやっっていこうという意欲が強く感じられた、実感できた会議だったと思います。

その中で、今コミュニケが出ているわけでありまして。日本はそこで、今もお話がありましたように、日本はアジアの中では原子力の先進国であるわけですから、その先進国としてのこれまでの技術を生かして、アジア地区に貢献する上でも、やはり今は足元をしっかりと固めていくことが大事だなというのを改めて感じました。非常に意義のある会だったと思っています。

以上です。

(近藤委員長) ありがとうございました。

他に。それでは、私からも感想を述べさせていただきます。私は二つの課題を指摘したいと思います。一つはこのコミュニケを出したところ、今後どうするかという問題。この行動を意義あるものにするには、フォローアップアクションが必要ですから、その責任を各国の大臣が持ったのだという問題意識を共有してもらい、今後適宜に連携協力して行動していくことを打ち出していかなければならない。そういう課題を背負ったと思います。

二つ目は、FNCAの協力活動は継続した活動であるところ、毎年一回の大臣会合の主要な使命は、各プロジェクトの進捗状況及び新しく設置されたスタディパネルの中身について評価して、今後の方針を決定することにあるのですが、今回は評価と決定が適切にできたのか、やや忙しい会議で、本来的なエグゼクティブコミュニティとしての機能が弱かったのではないかと思います。ナショナルレポートの読み上げを聞くだけで、時間切れになって終わってしまい、総括討論が無かったのは、今後の会議の設計への反省ではないかと思いました。今回はコミュニケの発出がメジャーな仕事だということでこれでいいのかなと思うのですけれども、本来的なミッションが継続的にきちんと行われていくための根拠をきちんとできるように議事予定を考えておくことが重要と思いました。

そんな課題を持っていますが、それにもかかわらず会議としては洗練された雰囲気であったと思います。

それでは、関係者には大変御苦労があったと考え、御尽力に感謝申し上げ、報告を了承と

したいと思いますが、よろしゅうございますか。

はい、それでは、そうさせていただきます。ありがとうございました。では、次の議題。

(2) 平成 2 0 年度原子力関係政府予算案について (速報値)

(黒木参事官) 次の議題は、平成 2 0 年度の原子力関係政府予算案でございます。政府予算につきましては、先般、24日に閣議決定が出されておりました、それを取りまとめたものでございます。資料の第2号に記載してございます。資料を見ていただくと分かりますように、原子力関係、来年度厳しい査定、状況になってございます。

まず、一般会計でございますが、20年度の政府予算案について、1,247億円ということで、19年度と比べて57億円ほど減少、4.4%減ということになっております。一方、エネルギー対策特別会計の電源開発促進勘定につきましては、20年度が3,269億円ということで、対前年度49億円の増ということでございまして、1.5%の増になってございます。

内訳といたしましては、電源立地対策、これが1,846億円、11億円増、それから利用対策の方が1,422億円、37億円増ということでございます。一般会計、特別会計合わせまして総額で20年度が4,516億円、約7.5億円減ということで99.8%という形になってございます。一般会計についてはもうずっと減少している状況でございますが、昨年は特別会計の増分がございましたので、1.6%増と若干数年ぶりに増えたわけでございますが、今年是一般会計、特別会計合わせて0.2%ということで、全体としては残念な結果になってございます。

2ページ以降にその政府予算案の総評ということで、少し内容が書いてございます。一般会計につきましては、対前年度比較増減のところを見ていただきますと、全体で先ほど述べましたように57億円の減ということでございます。この中で、中心は文部科学省でございまして、約45億円の減ということで、ほとんど原子力機構の運営費交付金でございますが、そこでの減ということが大きな要因ということだろうと思います。

また、外務省が約10億円減でございますが、これが概算要求の時から、御存じのように国連の分担金割合が19.5%から16.5%に下がったということで、これがIAEA等の分担金にすべて連動しているということで、こういう形になってございます。

エネルギー対策特別会計につきましては、全体で先ほど述べましたように約49億円増と

ということでございます。中身を見ますと、電源立地対策で11億円増、この中で文部科学省が20億円減、経済産業省が32億円増ということでございます。利用対策につきましては、38億円増、内訳では文部科学省が11億円、経済産業省が26億円増ということでございます。合計して7.5億円減ということでございます。表上で見ると、やはり文部科学省の53億円減と、経済産業省の58.8億円増と、その他12億円減ということで、やはり文部科学省分の減が全体に影響しているのかなという感じになっております。

今回は速報ということで、これからまた原子力委員会として、具体的内容について正式に関係省庁からヒアリングを行っていく予定にしております。

以上であります。

(近藤委員長) はい、ありがとうございました。御質問を頂く前に私から確認ですが、一般会計の経済産業省分はどこかに記載があるのですか。

(黒木参事官) 経済産業省は一般会計がなく、全部特別会計です。

(近藤委員長) エネルギー関係経費は、一般会計ゼロ、エネルギー対策特別会計だけですか。

(黒木参事官) 多分ないと思います。原子力以外はあまり知りませんが、特別会計の方で相当予算をそれ用に取っていますので、一般会計には取っていないのではないかと思います。

(近藤委員長) はい、分かりました。それでは、何か御質問があればどうぞ。なお、念のため、この詳細については後刻報告を受け、それも元に、委員会としての予算配分にかかる決定を行うこととなります。

はい、田中委員どうぞ。

(田中委員長代理) 感想ですけれども、一般会計、国の財政がこれだけ厳しいですから、全体の予算が減っていくというのはやむを得ないですけれども、この減っていく中で、いろいろなプロジェクトとか、新しいものがこれからまた出てきて、新規予算が計上されていくと、その中身が急速に、本当に必要な継続しなきゃいけないようなことに対してしわ寄せせざるを得なくなってくると思うのです。だから、そういうことを今後良く見ながら、原子力委員会としての予算の内訳を、来年から見っていくことが必要に思います。特に原子力機構の事業の中身が随分変わってきているなという感じがします。来年度も、50億円位減って、ITERとか廃棄物とか、今日は明示されていませんけれども、そういうのが相当額増えてきますので。

以上です。感想です。

(近藤委員長) 他に。私からも一つ。農林水産省分は無くなってしまったのですか。

(黒木参事官) 農林水産省が放射線照射施設の予算が無くなりましたので、従前他の予算の一部として見ていたものだったので、見た目が無くなった形になっています。

(近藤委員長) はい。それでは、本件はこれまでにします。ありがとうございました。

次の議題。市民参加懇談会のお知らせですか。

(3) 市民参加懇談会 in 富山について

(黒木参事官) 通常、その他の案件で出しているものでございまして、今回案件に登録しましたが、基本的にはその他の案件で扱うべきもので、富山でこの度、1月21日に「～知りたい情報は届いていますか～「新潟県中越沖地震に学ぶ」」ということで開催するというプレスリリースを出しましたので、その御報告でございます。

現地でも一部報道機関で報道していただきますので、参加者が多く来てもらえるのではないかなというふうに期待しています。後ろの方に参考資料で委員会の方からまいているチラシやアンケートを添付した形で行っております。今回は、前回の横浜に次いでより原子力施設に近いところということで、富山で開催するというところでございます。

以上です。

(近藤委員長) はい。本件、このようなことで開催すること、よろしゅうございますか。各委員にもオブザーバーとして御参加いただくこととなりますが。

はい、それでは、今年は雪が多いそうだから、雪の降り具合が心配ですが、了承ということにさせていただきます。

次。その他議題ですが、何かありますか。

(4) その他

(黒木参事官) その他は特にございません。

(近藤委員長) では、委員の方から、発言希望がありますか。

ありませんか。それでは、次回予定を確認して終わりにします。

(黒木参事官) 次回の予定でございますが、1月8日火曜日、10時30分からで、場所はこちらの方になります。1月8日は第一火曜日でございますので、定例会終了後にプレスとの懇談会を開催したいと思っております。

以上です。

(近藤委員長) 年始早々働くということですね。去年も8日からやったのかしら。

(黒木参事官) 去年は原子力委員が新任になられましたので、結構慌ただしくすぐに会議を開いて、新年の9日に開きました。

(近藤委員長) そうでしたね。それでは、今年の会議はこの52回で終わりです。去年は53回。1回多かったということですが、皆様には御苦勞様でした。皆さん、どうぞよいお年をお迎えください。

- 了 -